

日本尊厳死協会 御中

前略

急性期病院を定年退職し、療養病院に勤めて4年目の勤務医です。これまで「尊厳死の宣言書」を持参された方が2人ありました。1人目は宣言書に従い静かに安らかにお見送りできました。2人目は次の方です。困っております。

75歳の男性、心房細動、大動脈弁狭窄症があり、大動脈弁置換術を受けましたが、脳血栓を発症し寝たきりとなり意思疎通もできなくなりました。その後、リハビリテーション病院に入院中に心室性頻拍が出現し、手術を受けた病院へ搬送され電氣的除細動を受け抗不整脈剤の投与を受けました。そして、リハビリテーション病院を経てこの1月当院へ転院して来られました。右眼のみ開眼可能で、開眼を指示するとそれだけは可能でした。入院時、「尊厳死の宣言書」を提出されました。奥さんも宣言書を書いておられるそうです。宣言書を書いておられるのに経鼻経管栄養を受けて転院して来られました。不思議に思いご家族に尋ねてみました。息子さんは「宣言書は元気な時に書いたもので、今のように死を前にしたらこんなことを書くはずがない。眼はまだ輝いている。まだ、本人も諦めるはずがない」と、強く発言されました。我々の意見を聞く雰囲気は全くありませんでした。奥さんは息子さんの意見に従わざるを得ないのかも知れません。

流動食の注入後は、喘鳴が出現し苦しそう、溢れるように出る喀痰の吸引はもっと苦しそう、吸引の度にこちらを睨みつける眼は、「尊厳死の宣言書を書いているのに、何故こんなに俺を苦しめるのか」と訴えておられるようで怖い位です。

春先には、重症不整脈が約1か月頻発し、秋になって重症肺炎を併発し、いずれの時もご家族には覚悟して頂きました。しかし、いずれも奇跡的に乗り越えられました。ただ、点滴できる血管が無くなってきております。最近、奥さんに機会があれば「苦しそうですよ」と繰り返しております。昨日から又熟発しております。

このように、我々職員、悩みながらお世話しております。このような方もあるかと思えますので、ご意見、対処法お知らせ頂ければと思います。よろしくお願い申し上げます。